

【統合による魅力ある学校づくりの取組モデル】

○「学校運営協議会」の構築とICT環境による魅力ある授業づくりに取り組んだ例

1. 市町村の概要

◆人口：31,234人（令和2年1月現在）

◆小学校：13校，児童数1,388人 ◆中学校：5校，生徒数791人

※学校数，児童生徒数は令和元年5月1日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市は，令和元年5月に「学校再編に関わるアンケート」を小中学生の保護者の方に実施し，8月に「甲州市学校再編審議会」を立ち上げた。その審議会の答申は，「小学校は，現状のまま存続」「中学校は，生徒の減少を踏まえ，再編も視野に入れていく」こととなり，勝沼中・大和中の統合に向け，準備を進めている。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

先進的ICT環境の教育利用による，魅力ある21世紀型地域創生事業

◆研究課題

- ・統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として，高い教育機能を発揮するための方策に関する研究
- ・統合を契機とした学校運営システムの抜本的改革に関する研究
- ・統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

甲州市立勝沼中学校（11学級，245人）

甲州市立大和中学校（4学級，28人）

◆調査研究対象校を統合することとした背景・理由

- ・勝沼・大和地域の生徒数の減少。特に大和地域は，幼少期からクラス替えもなく人間関係が固定化し，生徒にとってより良い教育環境の提供を考えたから。

◆統合に至るまでの過程

- ・調査研究対象校の統合を決定するまでの期間：3年
- ・統合を決定してから開校に至るまでの期間：2年

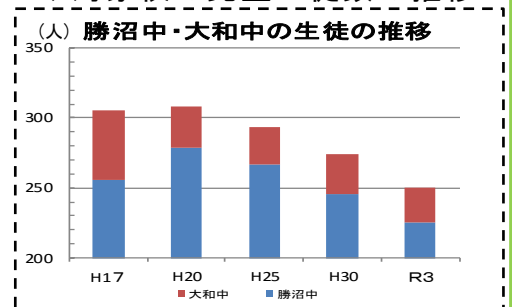
◆統合による学校の教育環境の変化の状況

- ・生徒の通学状況：スクールバスを運行予定
- ・施設整備の状況：勝沼中学校の施設の改修
- ・地域との連携：学校運営協議会を設置し，地域住民が学校運営に参画できるようにするとともに，地域で学校を支える体制の充実を図っていく。

◆調査研究対象校の位置



◆対象校の児童生徒数の推移



4. 本調査研究において取り組んだ内容

◆学校の再編統合が計画されている地域における「学校運営協議会」の構築

勝沼中学校と大和中学校の統合が、地域の理解・支援を得て円滑に実現できるよう、両中学校だけでなく、統合中学校区の5つの小学校とも連携するため、平成30年度に「勝沼・大和コミュニティ・スクール推進委員会」を立ち上げた。メンバーは、市教育委員会職員、市内小中学校長、PTA代表、区長代表、地域コーディネーター、学校アドバイザー（大学教授）等で構成した。会議は、年間3回ほど実施し、各校での実践発表を聞いたり、学校運営会議の規約などを話し合ったりして、連携を深めた。なお、菱山小・大和小で行った「学習成果発表会」などにも推進委員の方が見学をし、交流を図った。

なお、平成31年4月には、勝沼大和地区の7校がコミュニティ・スクールとしてスタートした。

◆先進的ICT環境の教育利用による、魅力ある授業づくり

(ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の研究)

タブレット端末を中心としたICT環境を配置し、交流授業等で効果的に行えるようにした。また、各学年のテーマ及び内容を決定し、生徒が主体的にかかわり、互いに伝え合い、教え合うことの楽しさを実感できる授業実践を行った。



〈テレビ会議システムでの交流授業〉

〈タブレット端末を活用した学習〉

(教師の負担軽減の取組)

教員の負担軽減を目指し、ICT機器の有効活用を図った。掲示板の利用・会議資料の事前配布など通し、会議時間の軽減に努めた。また、両校の打ち合わせなどについても、テレビ会議システムを利用したことで、移動時間などの削減も図れた。

5. 研究の成果と今後の取組

- ・「勝沼・大和コミュニティ・スクール推進委員会」で協議された内容を、各校の学校運営協議会で紹介し、勝沼・大和の7校が同じ方向を向きながら「地域と共にある学校づくり」を推進することができた。
- ・テレビ会議システムを活用した交流授業をすべての学年で行うことができた。他校の生徒との交流は、生徒たちの視野を広げ、新たな視点で物事を考え直すきっかけとなった。また、円滑な統合に向け、生徒たちの交流を図ることができた。
- ・タブレット端末とedutabを同時に使用することで、対話的な活動をスムーズに取り入れることができた。生徒の感想から「多様な考えに触れ、自分なりに考えを深めることができた」なども見られ、主体的で深い学びにつなげることができた。
- ・ICT機器の有効活用により、会議や打ち合わせの時間短縮ができた。また、教職員の勤務時間を記録し、可視化を図ることで、働き方を見直す機会となった。なお、会議資料のデータ化により、ペーパーレス化の取組みも実施することができた。

6. 学校の統合に課題を抱える自治体へのメッセージ

学校の統合に関しては、まず生徒たちのことを第一に考え、どのような環境が望ましいのか議論し進めてきた。遠隔による学習環境を整えた生徒同士の交流を行ったり、タブレット端末を活用した魅力ある授業づくりを実施したりした。また、地域の方々の理解や協力を得るために、学校運営協議会の構築を進めてきた。今後も両校に関わる様々な方々との「対話」が重要になってくる。